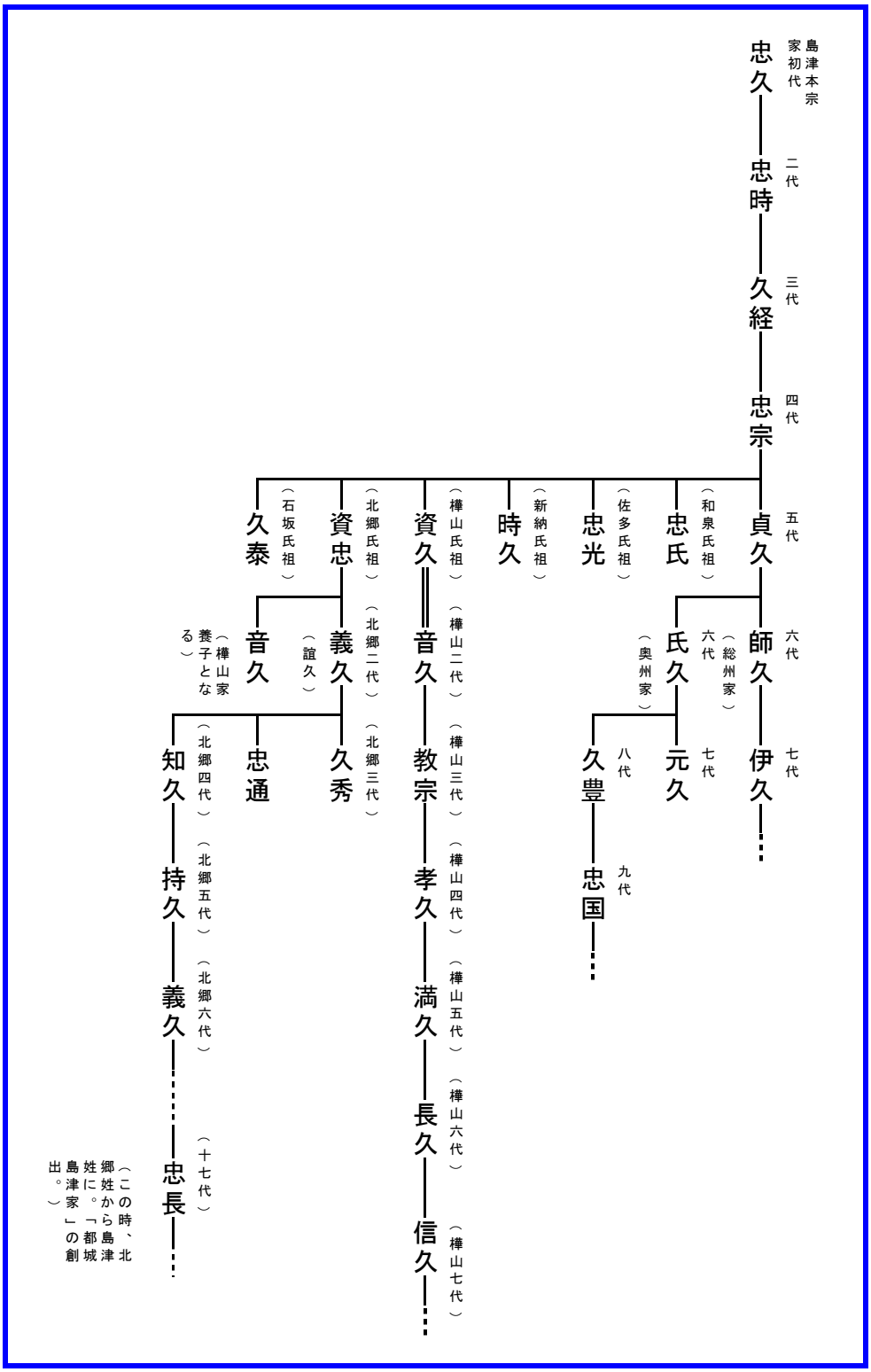
〔 島津氏略系図 〕



・島津本宗家（しまづほんそうけ）とは？

島津一門全体の本家であり、守護職を代々継承する家を指します。

・総州家（そうしゅうけ）、奥州家（おうしゅうけ）とは？

五代貞久（さだひさ）は文和（ぶんわ）元年（1352）頃には老齢と病魔のため、師久（もろひさ）、氏久（うじひさ）の二子に薩摩、大隅（おおすみ）の経略を委（ゆだ）ねていました。そして、11年後の貞治（じょうじ）2年（1363）に、貞久は三男上総介（かずさのすけ）師久に薩摩国守護職を、四男陸奥守（むつのかみ）氏久に大隅（おおすみ）国守護職を譲与（じょうよ）しました。師久の方は官位（かんい）の上総介にちなみ総州家と呼ばれ、氏久の方は官位の陸奥守にちなみ奥州家と呼ばれました。両家とも守護職を持ってましたので、両家とも六代、七代までは当（とう）主（しゅ）として数（かぞ）えられているのです。そして、奥州家七代元久（もとひさ）が応永（おうえい）11年（1404）に日向国守護職を獲得（かくとく）し、応永14年（1407）には薩摩国守護職をも獲得し、守護大名（しゅごだいみょう）として発展していく基礎を固めるのです。